

## 2015年度第2回 特定非営利法人サロン 2002 理事会議事録

【日時】 2015年9月14日(月) 18:45~20:15

【会場】 筑波大学附属高校 3F会議室

【出席】 中塚義実(理事長)、安藤裕一(理事)、笹原勉(理事)、嶋崎雅規(理事)、  
本多克己(理事)、茅野英一(監事)、春日大樹(事務局長補佐)

【欠席】 岸卓巨(理事)

【記録】 春日大樹

【議事録署名人】 安藤裕一、本多克己

【審議事項】

- 1) シンポジウム報告書について
- 2) 2015年度名簿について
- 3) 2014年度年報、ならびに Web について
- 4) 2015年度月例会について
- 5) スポーツくじ助成金について
- 6) DUO リーグ業務委託について
- 7) 会員とメンバーの位置づけについて
- 8) 事務局について、ならびに宣伝用リーフレットについて

### 1) シンポジウム報告書について

- ・シンポジウム報告書のテープ起こしは筑波大学の山田氏が既に作成済みである。これからはテープ起こしの内容を確認し、巻末に掲載する寄稿文が集まれば完成である。これからの課題として、報告書の編集長が誰であるか(おそらく岸)を中塚から岸へ確認すること、寄稿文の執筆者を検討、打診することである。遅くとも年内に報告書の完成を目指す。  
(中塚)

### 2) 名簿について

- ・現在 NPO 会員、スポネットメンバー合わせて 93 名中(うち NPO 会員は 28 名) 66 名が既に名簿を提出済みであり、間もなく名簿は完成する予定である。印刷を甲文堂にお願いすると、100部 725,00円、120部で 86,880円の費用がかかるが、今年度の予算としてここまでの額は確保していない。今年度は名簿データをメールにて送り、印刷物は希望者にのみ配布することを想定していたため、1冊 800円×10名の 8,000円を予算として計上していた。なお、甲文堂にお願いせず、自分たちでやればメンバー全員分を印刷することも可能である。HP 上にパスワード付きで名簿を公開することはリスクが高すぎるため、パスワード付きのファイルをメールにて転送する形を取り、個人情報流出のリスクを減らす。但し、サーバーに名簿のデータが残ってしまう危険性がある。(安藤)
- ・データをととして扱う場合、ハッキング等の問題ではなく、個々人の管理不手際によって個人情報流出する可能性が高いのではないかと考える。PDF 化してメールで送る場合には、必ずパスワードを付ける。サーバーに保管しパスワードを付けて HP 上で公開する場合、

個人情報が出してしまうリスクが高まる。いずれにせよ予定通り HP 上にパスワードなしで公開するものは、公開用として提出されたデータのみとする。（本多）

- ・2015 年度の名簿は印刷物ではなく、パスワード付きのデータで送り、その後必要分を印刷する形をとる。甲文堂に印刷をお願いしない。名簿のパスワードはデータを送ったものとは別のメールで共有する。HP には、各自公開してもよいとしているものを掲載するが、掲載前には本人に公開する情報を再度確認してもらうこととする。（中塚）

### 3) 2014 年度・年報について、ならびに Web について

- ・2014 年版の年報は作成者が異なるため、必要な資料はそろっているが、その書式はバラバラである。もしもこれを統一する作業を行うとなると発行が遅れてしまう。（嶋崎）
- ・書式がそろっていなくてもよいので速やかに公開する。名簿と一緒に PDF ファイルで転送し、今月中の完成を目指す。（中塚）
- ・年報は HP 上のどのカテゴリーに分類して公開するかという問題がある。カテゴリーを細かく分けることは作り手としてはよいことであるが、見る側にとっては見にくくなってしまふ。その為、報告事項はまとめて、報告・議事録に分類してしまう方法が考えられる。HP の内容更新のうち、月例会案内の更新は特別な技術を必要としないこともあり、本多、岸が行っている。更新頻度の高くない名簿などの更新は本多が対応する。（本多）
- ・年報は報告・議事録内に掲載することとする。但し、ページ上では議事録とは違う形（例えば議事録とは違うフォントにするなど）の工夫をして見易く掲載する。（中塚）

### 4) 2015 年度月例会について

- ・現在 HP に掲載されている月例会報告は、2月、4月に実施したものである。1月は本日中塚が内容確認を行い、参加者チェックを経たのち近日掲載予定である。4月月例会報告書は完成し、本多が HP 上に公開するのみになっている。5月報告書は春日が内容を確認し、参加者のチェックを行い、共有する。6月報告書は春日が急ぎ作成する。7月は公開シンポジウム実施のため、月例会は行わなかった。8月報告書は北田氏からすでに送られてきているが、報告書内の名前を公開しないでほしいとの要望もあり、掲載時期は現在未定である。なお、9月月例会報告書は中塚が作成予定である。  
報告書は、担当者が作成後、参加者の内容確認を経て HP 上に公開となるため、ずれ込みがちである。今後、確認作業などを理事で分担するなどして、素早く公開できるようにする。（中塚）
- ・10月月例会は岸がコーディネーターとして、国際武道大学と協力して行っている事業を紹介する予定である。10月末で大学の授業のない土曜日に実施したい考えである。会場は筑波大学附属高校の予定である。11月月例会はラグビーW杯について行うことを検討している。大会現地に行く予定の知り合いは多いが、サロ

ン会員の人はいない。もし、演者を会員にこだわるのであれば、嶋崎が担当する。11月月例会は個人的には11月24日以降に実施したい。（嶋崎）

- ・10月月例会は筑波大学附属高校の施設の関係で、10月20日以降になる予定である。急ぎ詳細を決定し、HP上に公開する。（中塚）
- ・12月5,6日に実施される柔道国際大会について、川戸氏を講師に迎え月例会を行うことは出来ないかとの打診を受けた。（春日）
- ・12月は柔道の内容で月例会を実施する方向で話を進める。そののち月末に忘年会を実施する。一部の参加者からの要望もあり、今年度は昨年度よりも早めに実施を検討するが難しいかもしれない。ラグビーについての月例会を11月月例会の内容に持ちこして、（12月頭の月例会を）11月月例会として実施することも可能である。今後の月例会のテーマになりそうなものは競馬（茅野）、オリンピック関係（中塚）、部活動の外部化について（嶋崎）、女子ラグビー（嶋崎）、フットサル関係（本多）、などが挙げられる。その他どんなネタを持っているか出しあう月例会（昨年度2月月例会）のようなものも面白いのではないか。（嶋崎・中塚）
- ・山下氏のフィアテン三重への出張サロンを実施したいと考えている。中塚が別件で今週末（9月20日~21日）に三重へ行くため、その際に出張サロンについての話が出来れば、来年2月にも実施出来ればよい。（中塚）

## 5) スポーツ振興くじ助成金について

- ・昨年度サロンの行った事業のうち、クーベルタン嘉納ユースフォーラムとユースフットサル大会に共催団体として関わった。今年度も、この2つの事業には関わる方向で進めていく。また、DUOリーグ内の事業として行っていたアート&リサイクルプロジェクトは今後サロン主導で行う方向である。例えば、来年（2016年）3月に実施されるフットサル大会とうまく絡めて行えれば面白いのではないか。上記の事業以外にも、今年度はNon-Border Football Projectも実施した。（中塚）
- ・2016年3月に墨田区でユースフットサル選抜トーナメントを実施する。GAVICがスポンサーになり、サロンは共催団体として参加する。後援に墨田区が入る予定で、これにより施設使用料を抑えることができる。この他、現在協賛団体を募っているところである。今年度は新たに「賀川浩賞」というものを設ける予定である。今大会が5回目の開催となり、各地で認知される大会になったが、予算面での問題がある。その中で、スポーツ振興くじ（以下 toto）助成金を申請しているのだが、大会実施時期が年度末の3月になり、申請手続きを行っている日本フットサル連盟（以下 JFF）の事務担当が代わってしまうため上手くいかないことが多い。そこで、JFFに代わって、サロンが toto 助成金を行う方向で現在 JFF と話をしている。実際の手続きとして、2015年11月に募集が始まり、2016年1月に申請書を提出する流れになる。2015年に実施した大会では助成金をもらえず実施したが、今年度もし助成を受けるならば、サロンを通じて申請を行う方がよい

のではないかと考えた。しかし、助成を受けると予算規模がかなり大きくなるので、理事会内だけで決定してもよい問題だろうか。また、助成の審査時の懸念事項として、サロンの予算が100万円に満たないため（大会の運営にかかる資金は300万円ほど）、大会を運営していくことのできる団体として判断されるか分からない。他団体で既に助成を受けた経験があるので、書類作成等のノウハウは持っている。しかし、フットサル大会はもともと予算案にはない事業であるため、今回新たに予算化するかどうかを検討したい。（本多）

- ・ユース選抜フットサル大会は、もともとサロン内でも構想があったもので、これが大きくなっていった。今まではNPO化する以前と変わらず、あまり表に出ない形で（お金には絡まない形で）活動してきたが、今回大きく一步を踏み出すかどうかを検討したい。（中塚）
- ・助成を受けるとして、その資金は事業が終了してから入ってくるお金なので、始めに理事もしくは金融機関から融資してもらう必要がある。その際に連帯保証人が必要になるので、なにか起きた時のリスクはある。また、助成を受ける場合は、助成にかかる事業を特別会計として予算上は処理する。助成金の申請と事業報告（サロン）は行うが、事業を運営するのは別団体（フットサル連盟）に任せるという形は、その事業におけるサロンの仕事はどこまでか見えにくいいため、審査の際に問題になる可能性がある。そこで、例えば総務・経理はサロン、実際の大会運営はフットサル連盟が行う、などの明確な役割分担を示す必要があるだろう。（茅野）
- ・フットサル連盟は先も述べたように、担当者が代わってしまうこともあり、申請が上手くいかない場合があるので、それならばサロンに請け負ってもらう形がよいのではないか。（本多）
- ・申請する団体の名前が代わって、同じ事業で申請してくることは、審査の際の心象が悪い。助成を受けずに大会を実施して、次回同じ体制で大会を行うので問題なく行えるとして助成金を申請する方がよいのではないか。申請をサロンが請け負う、請け負わないどちらにしても、主催・共催などの役割をサロンが果たせるかどうか、どこまでの仕事を行うのが問題になるのではないか。丁寧に話を進めるべきことなので、例えば両角氏などに意見をうかがって話を進めるべきではないか。  
少し話は代わるが、シンポジウム報告書やWebサイトの制作などの事業では助成金がもらえる可能性が高いのではないか。その場合、報告書の最後に広告を付けるなどの条件がつく可能性がある。Webサイトの場合、今のままでは助成金は出ないだろうが、例えば月例会の報告書をまとめたものを出すとすると、もらえる可能性は高くなる。（茅野）
- ・助成金の対象事業の内容を見て、サロン内のことを考えると、シンポジウムを行い、報告書を作成するというものには助成金が降りる可能性が高い。そこでまずそちらで実績を積んでおくこともよいのではないか。（嶋崎）

- ・シンポジウムについてはもともと予算内の話なので、総会を開く必要はない。しかしフットサル大会の場合は、開く必要がある。解説にサロンメンバーが深くかかわった大会を続けていくためには、フットサル連盟が出来ないならサロンでそれを担うことを検討したい。お金の入るタイミング、また出ていくタイミング、連帯保証人などのリスクはあるので、そこはシックスとサロンの間で手続きを行えば可能である。（本多）
- ・本多がサロンの理事でもあるので、利益相反にならないように注意して手続きを行う必要がある。事務受託という形もあるので、それも選択肢に入れてもいいのではないかと。事務受託の件費をもらって、サロンが大会を手伝うということである。その場合、助成金の申請をするのは連盟、もしくは委任状をもらってサロンが行うという方法になる。大会の運営には出ていかないが、toto とのやり取りには前向きに出ていく形となる。（茅野）
- ・どのような方法が適切であるか、中塚から両角晶仁氏・仲澤眞氏に相談する。ただ、サロン全体の流れとして、フットサルよりもシンポジウムから助成を受けに行く方が、NPO 全体の総意は受けやすいのではないかと。（中塚）
- ・シンポジウムのように冊子を発行できる団体は少ないので助成は受けやすいのではないかと。加えて、事業も事務もしっかり行えるとすると好評価につながる。但し、シンポジウム実施自体が、「情報提供」というカテゴリーに分類されるかどうか、すなわち、冊子の作成には助成金がもらえて、シンポジウムの運営には助成金が出ない可能性がある。シンポジウムが、「情報提供」や「スポーツ大会」などどこに分類されるか確認する必要がある。（茅野）
- ・結論として、toto 助成が受けられるように進める。但し、シンポジウムから始めていく。申請書類作成のノウハウは本多が持っているので、事務局と協力して進めていく。フットサルはまず両角氏などの助言を受けながら、サロンが出ていくべきか検討する。（中塚）

## 6) DUO 業務受託について

- ・DUO リーグの事務をこれまでサロンの事務局が担っていた。これに加えて、DUO リーグ内の企画部（医科学関係の講習会やスキンプロジェクトの推進などの企画を担ってきた部門）の担い手がいないのでサロンに受けてほしいとの話が来ている。今後詳細について、DUO リーグチェアマンの岩野氏と詰めていく予定である。（中塚）

## 7) 会員とメンバーの位置づけについて

- ・今回、NPO 会員であった小池正通氏がスポネットメンバーへ移られた。移られた理由についてはいろいろあるだろうが、会員としてのメリットが総会での発言権しかないのはどうなのか、ということもあると思う。会員とメンバーの位置づけについて理事の意見を伺いたい。（中塚）

- ・会員とメンバーの間でメリットの差別化は不要と考える。それより、一般人とメンバーの差別化を図るべきではないか。（笹原）
- ・メリットという言い方ではなく、会員にはどういった権利があるかはっきりさせていくべきではないか。（本多）
- ・メリットを得るために、会費の1万円を払っている訳ではないので、その点は考慮すべきではないか。（嶋崎）
- ・メリットではないが、今まで理事会のみで情報交換し、議論を進める傾向があった。理事会だけで閉じていた情報を会員にも共有していくべきである。（中塚）
- ・全ての情報を共有する必要はないが、現在どういった議論が理事会でなされているかを共有することで、総会などの話が進めやすくなる。（茅野）
- ・現在は、理事会議事録の最終版をHP上に公開しているだけなので、途中経過も含めて、会員にはどんどん公開していくのがよいのではないか。その中で意見を出してもらえると理事会としても有意義なことである。（嶋崎）

## 8) 事務局について、ならびに宣伝用リーフレットについて

- ・現在は事務局長、事務局長補佐でコミュニケーションがとれているので、取りたてて大きな問題は起きていない。しかし、今後春日が卒業するとなると平日など時間の融通の効く学生がいなくなってしまうので、その際に問題が生じる可能性がある。（春日）
- ・こういった民間団体で活動することは社会勉強にもなるので、今後も気持ちのある院生をリクルート出来ればよい。（茅野）
- ・リーフレットについては、デザイン・レイアウト等を決める前に、どういった内容のものにするか本多が担当し考える。（本多）
- ・シンポジウムや Non-Border Football Project など非メンバーの参加者が多くいるところで新たに会員やメンバーになってもらうため、リーフレットが配ればよい。出来れば、リーフレットの下の部分などに会員申込書などをつけてしまってもよいかもしれない。（笹原）

以上